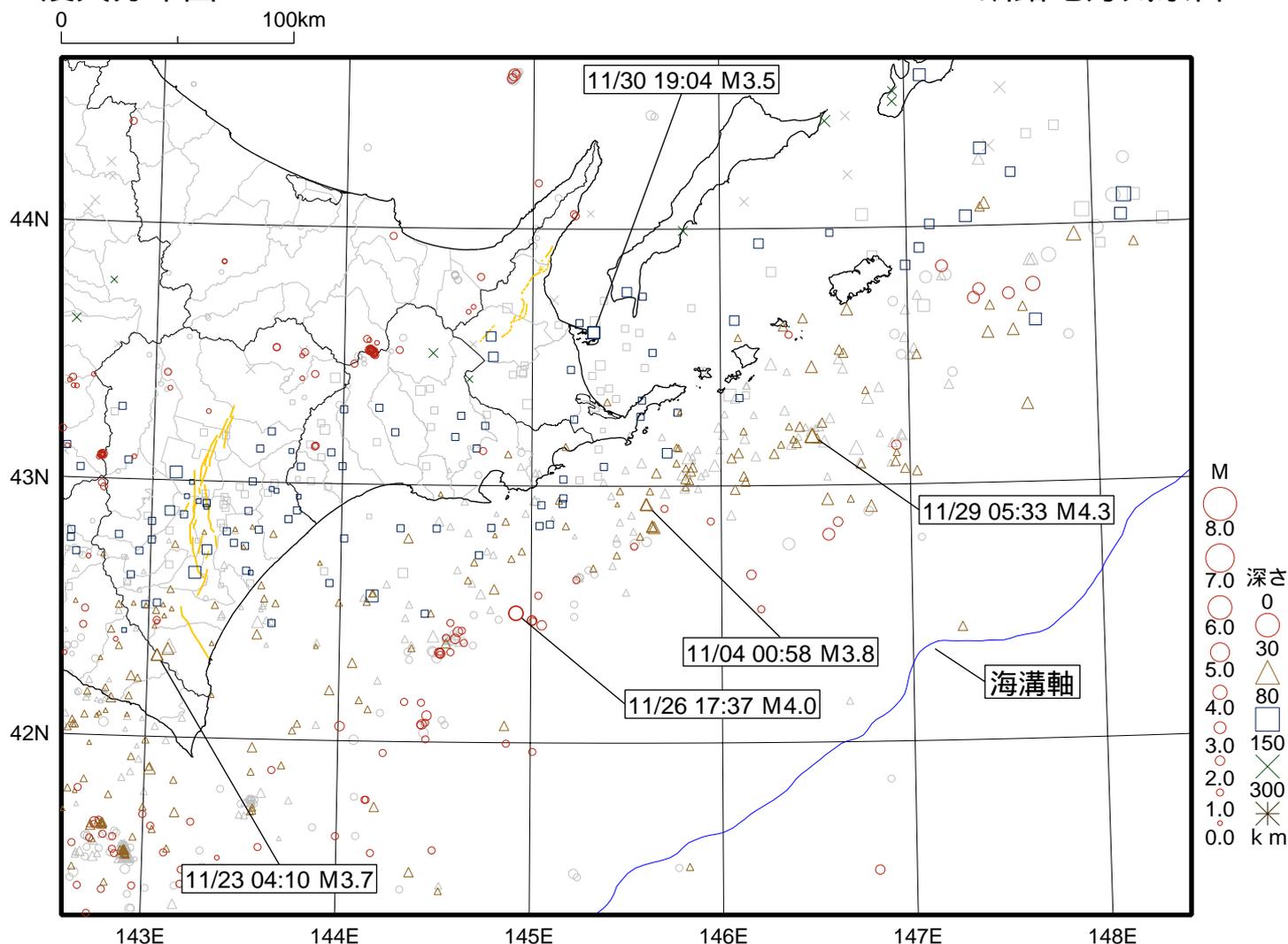


# 釧路・根室・十勝地方の地震活動図

2021年11月1日～2021年11月30日

震央分布図

釧路地方気象台



## 地震概況（2021年11月）

この期間、釧路・根室・十勝地方の震度観測点で震度1以上を観測した地震は5回(10月は7回)で主な地震は次のとおりです(詳細は「釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表」を参照)。

4日00時58分、根室半島南東沖の地震(M3.8、深さ38km)により、根室市で震度2を観測したほか、浜中町、標津町で震度1を観測しました。

23日04時10分、日高地方東部の地震(M3.7、深さ50km)により、芽室町、幕別町、浦幌町、更別村、大樹町で震度1を観測しました。

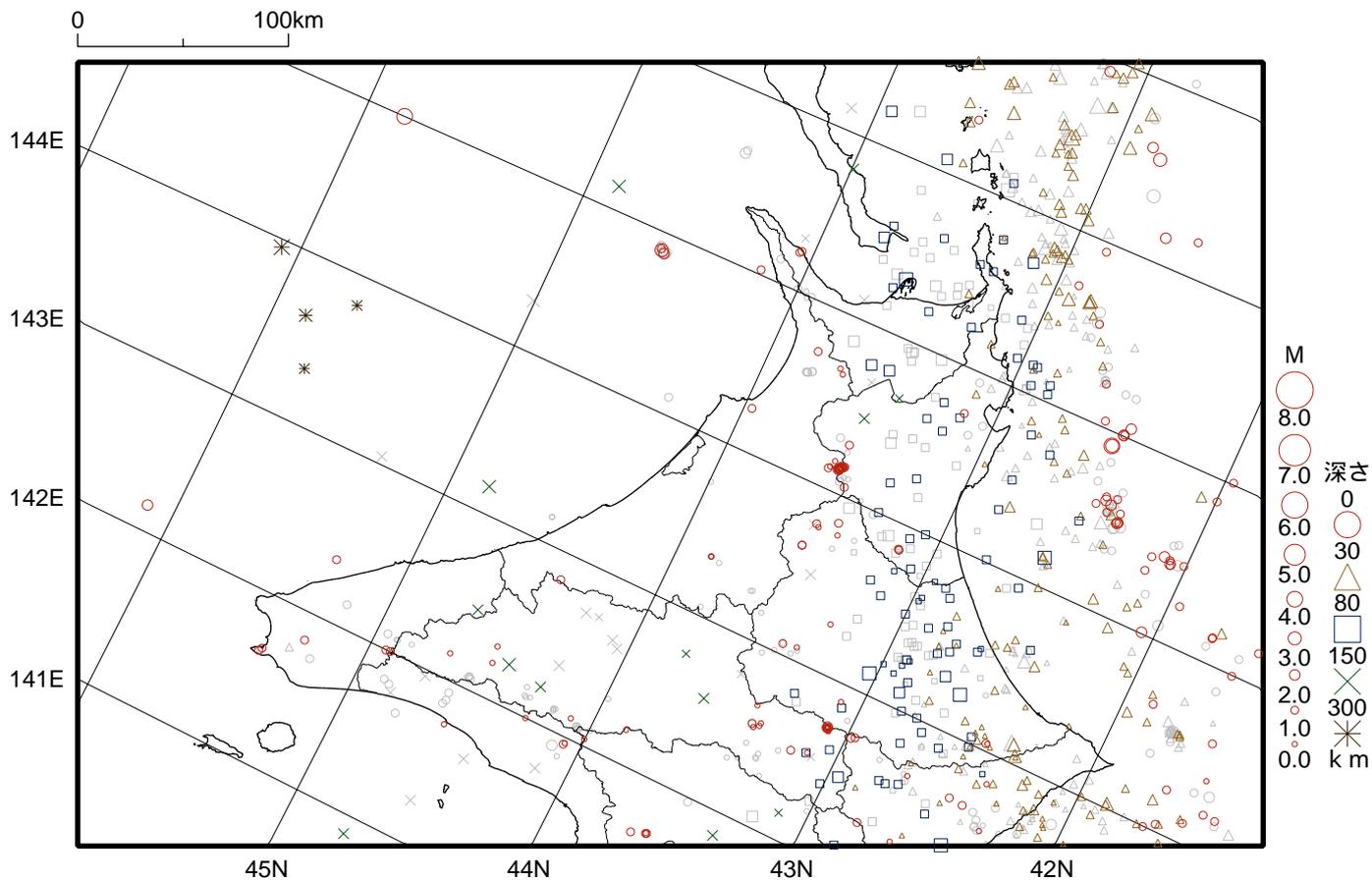
この活動図は、釧路地方気象台のホームページに掲載しています。

[https://www.data.jma.go.jp/kushiro/bosai/earthquake/earthquake\\_data.html](https://www.data.jma.go.jp/kushiro/bosai/earthquake/earthquake_data.html)

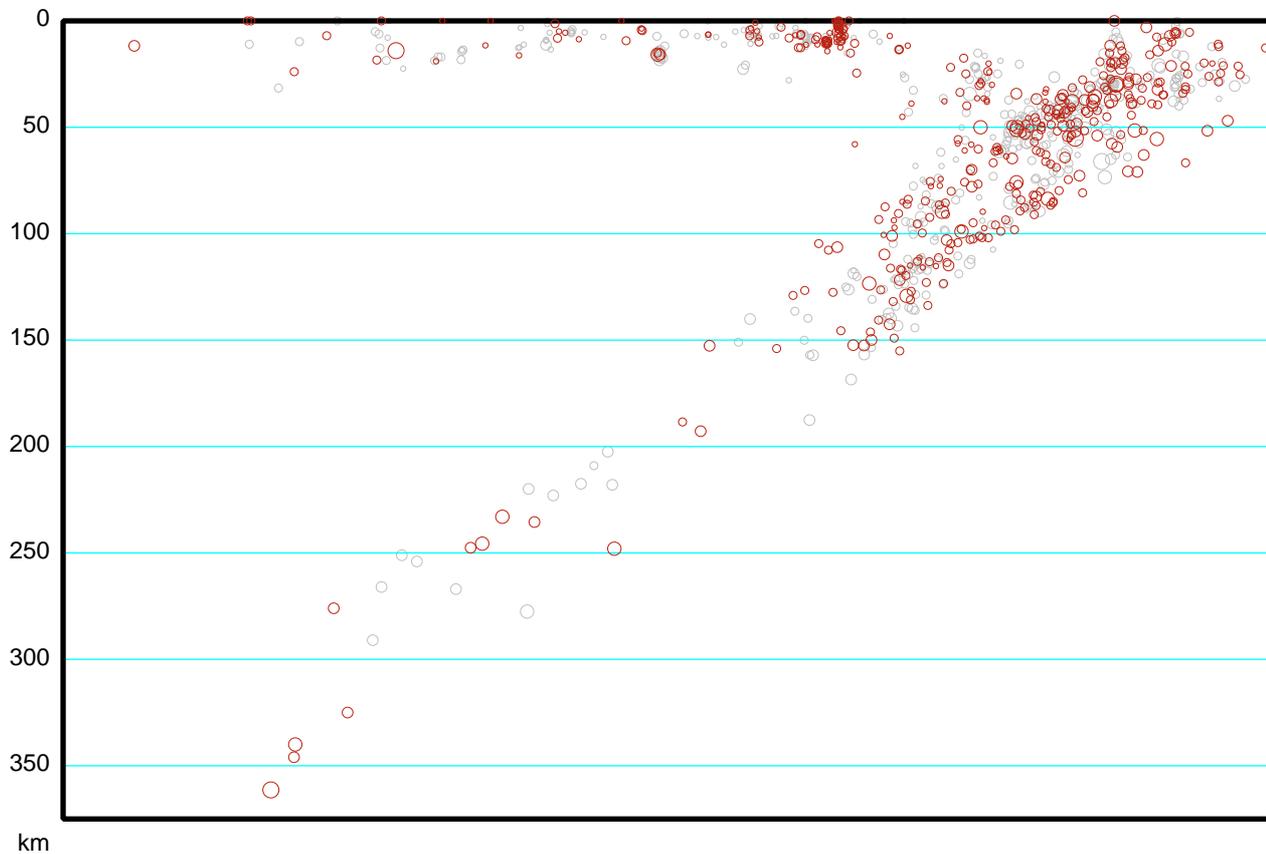
この資料に関する問い合わせ先 釧路地方気象台 TEL 0154-31-5110

2021年11月1日 ~ 2021年11月30日

震央分布図



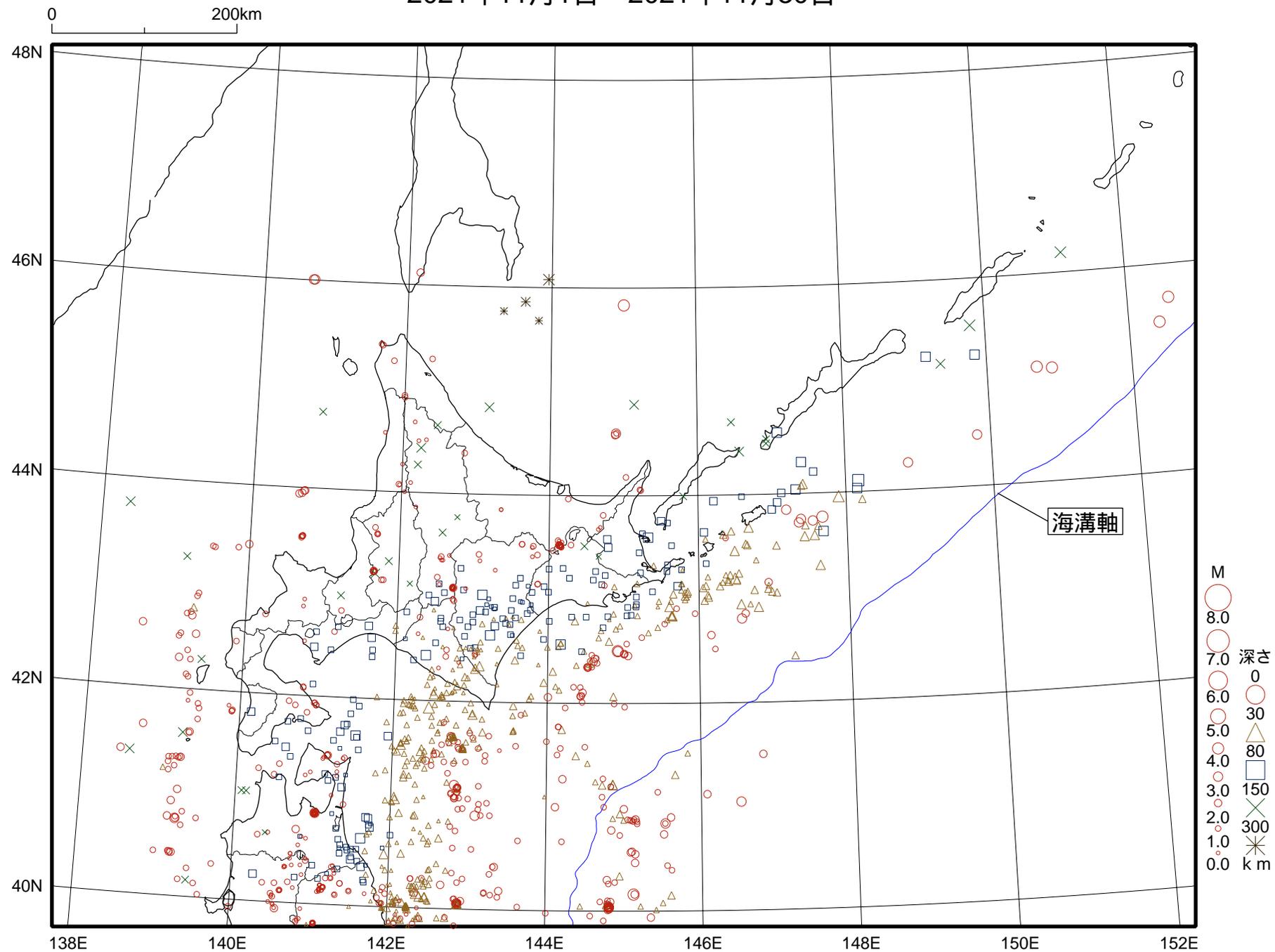
断面図



# 北海道の地震活動図

2021年11月1日 ~ 2021年11月30日

震央分布図



## 釧路・根室・十勝地方で震度1以上を観測した地震の表（2021年11月）

年 月 日 地方	時 分 震度	震央地名 震度観測点名	北緯（N）	東経（E）	深さ（km）	規模（M）
2021年11月4日 根室地方 釧路地方	00時58分 震度2 震度1 震度1	根室半島南東沖 根室市牧の内*（20） 標津町北2条*（06） 浜中町茶内*（13）	42°55.7 N	145°36.2 E	38 km	M3.8
2021年11月23日 十勝地方	04時10分 震度1	日高地方東部 芽室町東2条*（06） 十勝大樹町東本通*（07）	42°19.1 N	143°02.9 E	50 km	M3.7
2021年11月26日 釧路地方 根室地方	17時37分 震度1 震度1	釧路沖 厚岸町真栄*（06） 根室市落石東*（08）	42°30.2 N	144°55.2 E	30 km	M4.0
2021年11月29日 根室地方	05時33分 震度1	根室半島南東沖 根室市落石東*（12）	43°11.5 N	146°29.0 E	55 km	M4.3
2021年11月30日 釧路地方 根室地方	19時04分 震度1 震度1	国後島付近 標茶町塘路*（06） 根室市厚床*（07）	43°35.8 N	145°19.5 E	129 km	M3.5

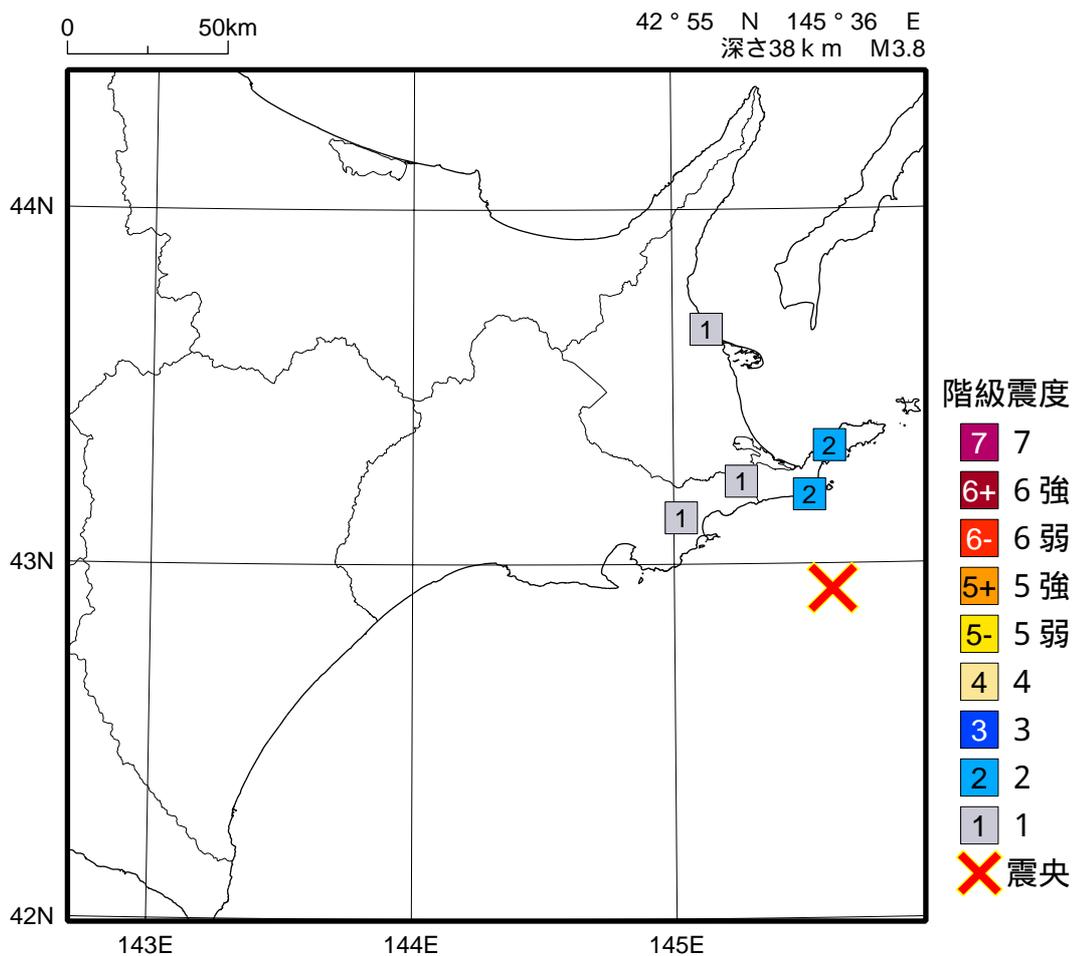
\*のついている地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

( )内の数値は0.1単位の詳細な震度（計測震度）の小数点を省略して表しています。

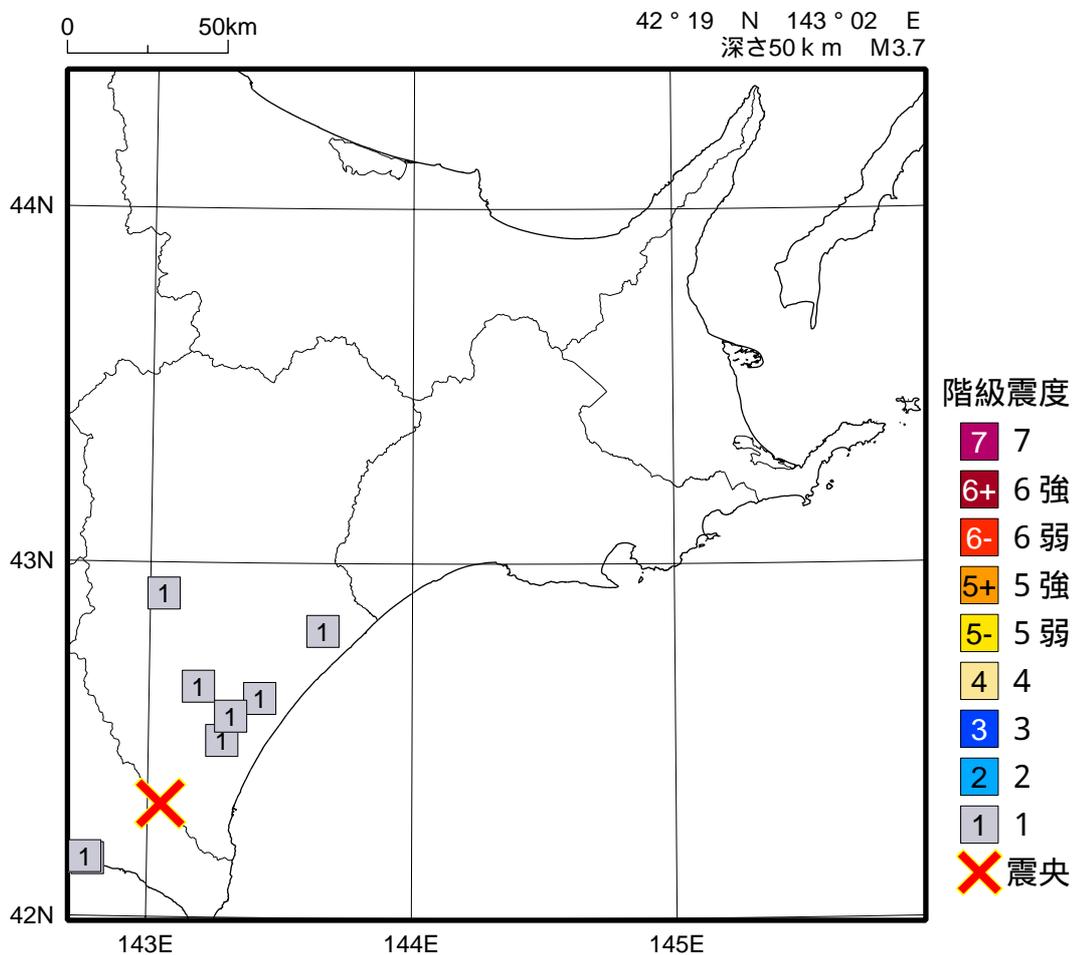
### 計測震度と震度階級の関係

計測震度	~0.4	0.5~1.4	1.5~2.4	2.5~3.4	3.5~4.4	4.5~4.9	5.0~5.4	5.5~5.9	6.0~6.4	6.5~
震度階級	0	1	2	3	4	5弱	5強	6弱	6強	7

2021年11月4日00時58分 根室半島南東沖の地震の震度分布図



2021年11月23日04時10分 日高地方東部の地震の震度分布図



## 本資料の利用にあたって

- ・ 本資料の震源要素及び震度データは暫定値であり、データは後日変更することがあります。
- ・ 次の期間の地震について、暫定的に震源精査の基準を変更しているため、それ以外の期間と比較して微小な地震の震源決定数の変化が見られることがあります。  
2020年9月1日から10月23日まで、 2021年1月9日から3月7日まで、 2021年4月19日以降
- ・ 2020年9月以降の地震は、それ以前と比較して、処理方法の違い等により、震源の見かけ上の位置や震源決定数に変化が見られることがあります。
- ・ 本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点（河原、熊野座）、米国大学間地震学研究連合（IRIS）の観測点（台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東）のデータを用いて作成しています。
- ・ 図中橙色の線は、地震調査研究推進本部が地震発生可能性の長期的な確率評価を行った主要活断層を表します。
- ・ 過去の地震と比較するため、前3ヶ月（今期間を含まない）の震央を灰色のシンボルで表します。
- ・ 本資料中の地図の作成にあたっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図25000（行政界・海岸線）』を使用しています（承認番号平29情使、第798号）。

## 【防災メモ】

# ～陸域の浅い地震～

地球の表面は十数枚の巨大な板状の岩盤（プレート）で覆われており、それぞれ別々の方向に年間数cmの速度で移動しています。日本列島周辺では、複数のプレートがぶつかり合うため、大きな力がかかり岩盤にひずみが蓄えられます（図1）。そのひずみが限界に達したとき岩盤が急速に動き地震が発生します。

地震は、海溝沿いでプレート境界や海のプレート内部で発生する地震（海溝型地震）のほか、陸域の浅い所でも発生します。この地震を「陸域の浅い地震」と呼びます（図2）。

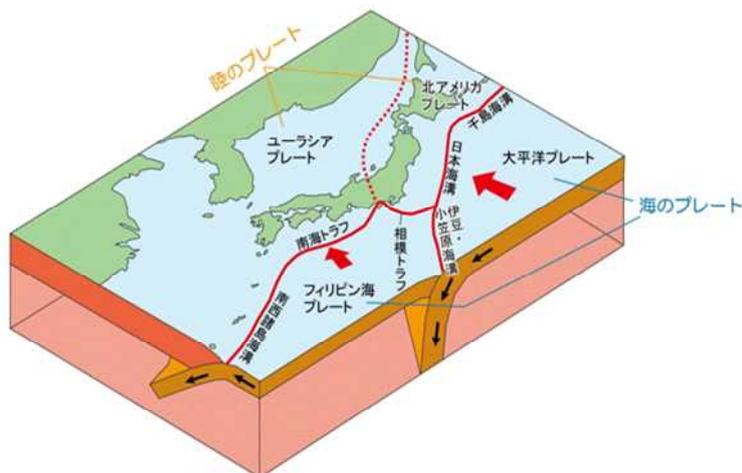


図1 日本列島周辺のプレート

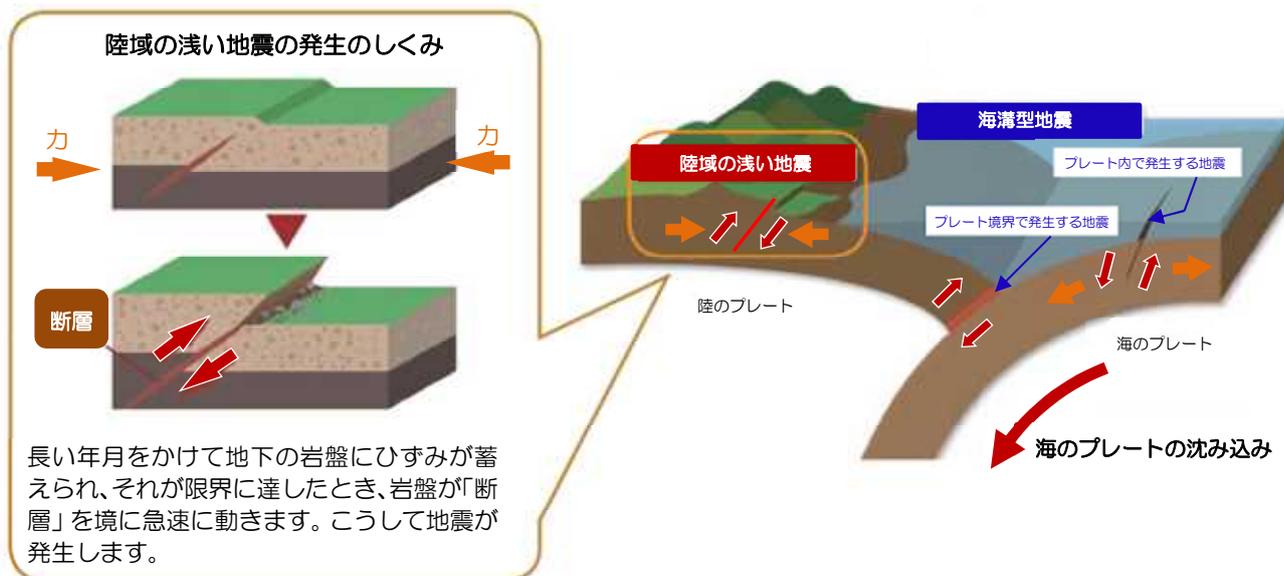


図2 日本列島周辺で発生する地震のタイプ

「陸域の浅い地震」は人の住む地域に近い場所で発生する可能性があるため、地震の規模（マグニチュード）が比較的小さくても局所的に強い揺れを伴う場合があります。また、震源に近い地域では緊急地震速報より先に強い揺れが到達してしまうこともあります。「平成30年北海道胆振東部地震」もこのタイプの地震で、この地震により甚大な被害がもたらされました。このような地震はいつでも発生してもおかしくないため、突然の揺れを想定して日頃から家具の固定や身の安全を図る行動の確認をしておきましょう。